

〔八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

特産園芸作物の病虫害防除対策

～「菊池レモン」のネットハウス栽培における害虫の発生～

吉田滋実

(島しょセ八丈)

【要 約】「菊池レモン」圃場におけるアブラムシ類とミカンハモグリガの発生には、被覆資材の影響が大きかった。雌花からは、レモンに加害するアザミウマは捕獲されなかった。

【目 的】

「菊池レモン」の生産拡大が求められる中、比較的容易に導入できる簡易施設（ネットハウス）栽培を実用化するために、被覆が害虫の発生に及ぼす影響を明らかにする。

【方法】

調査対象は1×1mm目合の白色防虫網を張った白ネット区と2×4mm目合の青色遮光網を張った青ネット区、および被覆しない露地区とした（表1）。害虫の発生を目視により確認すると共に、2013年7月18日から黄色、青色の粘着トラップ（それぞれ「黄色、青色」と表記）を各1枚設置し、捕獲した昆虫の種類と数を1週間ごとに調査した。また5月7日に各圃場の雌花10花からアザミウマ類を採集し、同定した。

【成果の概要】

1. 各区ともミカンハモグリガ、チャハマキによる被害が特に目立った（データ未掲載）。露地区で多かったアゲハチョウやシャクガ類による被害は、白ネット区、青ネット区では少なかった。カイガラムシ類は通年見られ、特に白ネット区で甚だしかった。これらの害虫を防除するため、殺虫剤を施用した（表2）。
2. 粘着トラップに捕獲された主な昆虫は、いずれの区でもアブラムシ類 有翅虫、アザミウマ類、およびミカンハモグリガであった（表3）。他にハエ目、ハチ目などが多く、ツヤコバチやアブラバチ等の寄生性昆虫も捕獲された。
3. アブラムシ類 有翅虫の捕獲数（黄色）をみると、青ネット区は露地区と同様に5月中旬から6月中旬、および8月中旬から11月上旬に特に多かった（図1）。白ネット区では2013年9月下旬から急激に増加したが、2014年は少なく推移した。
4. アザミウマ類の捕獲数（青色）は、青ネット区が調査期間を通じて多かった（図2）。いずれの区も5月上旬頃から多く捕獲されるなど、捕獲数の増減の傾向は同程度であった。
5. ミカンハモグリガのネット区の捕獲数（黄色+青色）は、露地区より少なかった（図3）。
6. レモン雌花からハナアザミウマとダイズウスイロアザミウマの2種が捕獲された（表4）。
7. まとめ：「菊池レモン」は栽培条件で害虫の発生傾向が異なった。特にアブラムシ類とミカンハモグリガについては、被覆資材の影響が大きかった。また、雌花で確認されたアザミウマは、かんきつ類への加害が知られていない種類であった。

表1 調査圃場

調査区名称	被覆資材	面積	植栽株数
白ネット区	1×1mm目 白色防虫網 全面被覆	68㎡	成木6株・未成木4株
青ネット区	2×4mm目 青色遮光網 全面被覆	64㎡	成木5株
露地区	なし	48㎡	成木5株

表2 調査期間における農薬散布

年月日	農薬名(一般名)	対象害虫
13/07/08	メタアルデヒド粒剤	カタツムリ
08/01	DMT P乳剤	カイガラムシ類
08/01	アセタミプリド水溶剤	チャハマキ
09/13	レピメクチン乳剤	ミカンハモグリガ
09/30	アラニカルブ水和剤	アブラムシ類, カイガラムシ類
10/28	アセタミプリド水溶剤	ミカンハモグリガ, カイガラムシ類

表3 粘着トラップに捕獲された昆虫の内訳(2013年12月5日～14年12月4日)

	セミ目(うち アブラムシ類 有翅虫)	アザミウマ類	ミカン ハモグリガ	コウチュウ目	ハエ目	ハチ目 (うちツヤコバチ)
白ネット区	64 (50)	2,463	63	1	688	516 (177)
青ネット区	898 (835)	2,679	120	10	956	343 (118)
露地区	998 (955)	2,240	136	27	1,018	494 (249)

※黄色と青色粘着トラップでの合計捕獲数

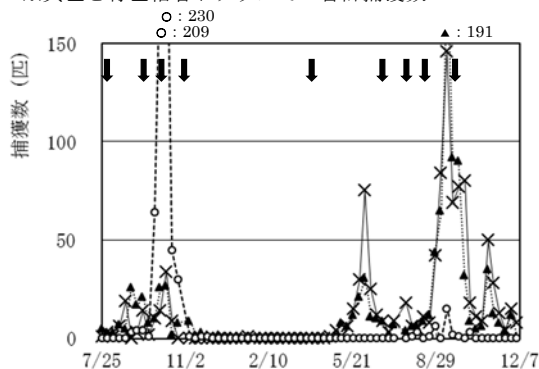


図1 アブラムシ類 有翅虫の捕獲数の推移

※黄色粘着トラップでの捕獲数

記号(図1～3共通)

○:白ネット区 ▲:青ネット区 ×:露地区

↓:殺虫剤(当該害虫に登録があるもの) 施用日

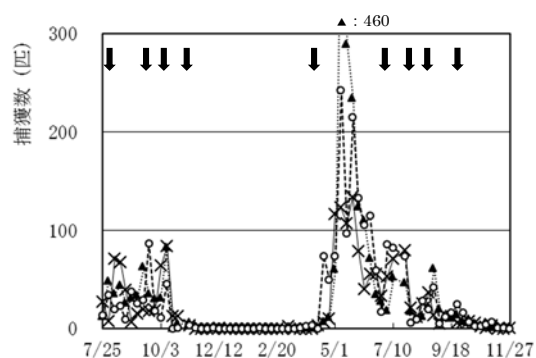


図2 アザミウマ類の捕獲数の推移

※青色粘着トラップでの捕獲数

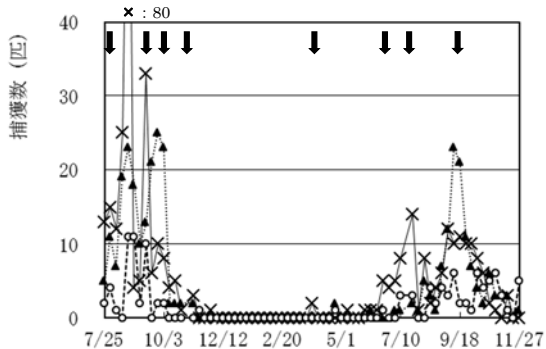


図3 ミカンハモグリガの捕獲数の推移

※黄色と青色の粘着トラップでの捕獲数の和

表4 「菊池レモン」雌花で捕獲したアザミウマ類

	ハナアザミウマ	ダイズウスイロ アザミウマ
白ネット区	2 ^{a)}	1
青ネット区	2	0
露地区	1	1

a): 捕獲数(匹/10花)